

外 国 語

1 学習指導と評価の改善・充実

平成26年度「北海道高等学校学力向上推進事業」学力テストの結果の分析から指導の改善・充実のポイントを明らかにする。

(1) 学力テストの概要

ア 学力テスト対象科目、学年等

主として「コミュニケーション英語Ⅰ」の学習内容を出題し、道内の高等学校の第1学年を対象に実施した。

問題は、学習指導要領の内容を踏まえ、「北海道高等学校学力向上推進事業」推進校及び協力校の協力のもと、能力・進路等に応じた教育を提供するため、対象や目的を明確にしたC、B、Aの3モデルごとに作成した。ここでは、Bモデルを例に解説する。

イ 「コミュニケーション英語Ⅰ」(Bモデル)における領域別の問題の種類と問題数

	問題の種類	出題のねらい	問題数
聞く こと	語彙定義理解問題	英単語の説明を聞いて理解する	5
	対話文理解問題	英会話文を聞いて詳細を理解する	5
	概要・要点理解問題	英語を聞いて概要・要点を理解する	5
読む こと	対話文理解問題	対話文の内容を理解する	5
	英文内容理解問題	メール文の内容を理解する	5
	英文内容理解問題	まとまった量の英文の内容を理解する	8
話す こと	情景描写問題	挿絵を見て、その内容について英語で話す	1
	質疑応答問題	内容を考えて、感情表現を使い英語で話す	1
	意見陳述問題	自分の意見を英語で話す	2
書く こと	条件指定問題	内容を考えて英語で書く	1

(2) 学力テストの結果概要 (外国語)

ア 分析

全道の状況は、「聞くこと」や「読むこと」に比べ、「話すこと」や「書くこと」の正答率が低く、指導の課題があると考えられる。(Cモデル及びAモデルにおいても同様の傾向が見られた。)

イ 結果の概要と指導上の工夫・改善

聞くこと

結果の概要

・ 事物に関する紹介や対話などを聞いて、情報や考えなどを理解したり、概要や要点をとらえたりする力が必要である。

指導上の工夫・改善のポイント

教師や他の生徒による発話や、様々な音声の教材を聞いて、情報や考えなどを的確に理解したり、目的に応じて概要や要点をとらえたりするような活動を行う。

(例：事前に理解させる英文に関するキーワードを与えてから生徒に聞かせる。)

読むこと

結果の概要

- ・説明や物語を読んで、情報や考え理解したり、概要や要点をとらえたりする力が必要である。

指導上の工夫・改善のポイント

読む活動にとどまらず、読んだ内容について、賛成や反対などの意見を述べたり、簡単な感想を述べたりするような活動も併せて行う。

話すこと

結果の概要

- ・聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、話し合ったり意見の交換をしたりする力が十分でない。

指導上の工夫・改善のポイント

- ・生徒同士で話し合ったり意見の交換をしたりする活動を、生徒の実態に応じて、段階的に進める。
- ・話すことを中心とした活動ではあるが、他の3技能を活用した活動と有機的に関連させる。
- ・話す活動の前に、ある程度、聞いたり読んだりして情報や考えなどを取り入れる活動を行う。
- ・英語を聞いたり読んだりする中で、話す際に必要となる表現を身に付けるように指導する。

書くこと

結果の概要

- ・聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、「情報」や「考え」などについて「簡潔に書くこと」が十分でない。

指導上の工夫・改善のポイント

- 「情報」について書く場合
 - ・聞いたり読んだりした内容などをそのまま書くのではなく、平易な表現に置き換えたり、情報の順序を変えたりするなどして、読み手に分かりやすく伝えるように指導する。
- 「考え」について書く場合
 - ・話題を明示した上で、それに関する意見やその理由を述べるなど、構成上工夫する。
- 「簡潔に書く」ための工夫
 - ・生徒の習熟の程度に応じた表現を用いるよう促したり、適切な分量を設定したりするなど配慮する。
 - ・グループ等での活動により、お互いに書いた英語を指摘し合ったり、評価し合ったりすることで、生徒が主体的・協働的に学ぶよう工夫する。

2 「確かな学力」を育成する取組の改善・充実

(1) 指導と評価の一体化の一層の充実

平成26年度「北海道高等学校学力向上推進事業」学力テストの結果の分析から、「聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて」話したり書いたりすることに課題があることから、このような能力を育成するための指導を充実するよう授業の改善を図る必要がある。

外国語では、生徒が「聞くこと」や「読むこと」を通じて得た知識等を活用し、「話すこと」や「書くこと」を通じて発信することが可能となるよう、4技能を総合的に育成する指導の充実が求められている。ここでは、「話すこと」と「書くこと」に関する具体的な取組の例を紹介する。

ア A高等学校の「CAN-DOリスト」(抜粋)

「外国語理解の能力」(聞くこと、読むこと)及び「外国語表現の能力」(話すこと、書くこと)について、4技能を用いてどの時期までに何ができるようになるかを「～することができる」という具体的な文章(能力記述文)で生徒に提示している。次の例は、「2年次前期まで」における「CAN-DOリスト」(抜粋)である。

外国語理解の能力		外国語表現の能力	
聞くこと	読むこと	話すこと	書くこと
・単語の発音、音のつながり、強弱などに注意して、その内容を理解することができる。	・広告やパンフレットなど、図や表から必要な情報を得ることができる。	・自分のことや興味・関心のあること、身近なことについて、やり取りをしたり、自分の気持ちや意見などを表現したりすることができる。	・興味・関心のあること、身近なものや人、話題について説明をすることができる。

イ A高等学校の「シラバス」(抜粋)

シラバスは、シラバスの中で提示される学習のねらいや単元の目標が「CAN-DOリスト」と関連付けられていることが重要である。また、生徒が到達目標を達成したか、指導内容が十分であったかなどを検証することができる評価方法や評価規準を設定することが大切である。

次の例は、「2年次」における「シラバス」(抜粋)である。

CAN-DOリストとシラバスにおける「身に付ける力」が関連している!

教科・科目	外国語科：「コミュニケーション英語Ⅱ」		単位数・履修期間	4単位・2年次
学期	学 習 内 容	月	学習によって身に付けること(評価規準)	
前 期 中 間	Lesson 1 Welcome to Japan! ・自己紹介する。 ・お互いの国の文化や生活について紹介する。	4	「聞くこと」 ・単語の発音、音のつながり、強弱などに注意して、その内容を理解することができる。	「話すこと」 ・自分のことや興味・関心のあること、身近なことについて、やり取りをしたり、自分の気持ちや意見などを表現したりすることができる。
	Lesson 2 A Trip Abroad ・海外のパンフレットから参加したいツアーを選び、友人に紹介するなど	5	「読むこと」 ・広告やパンフレットなど、図や表から必要な情報を得ることができる。	
	《評価方法》 ・スピーキングテスト ・定期考査		「書くこと」 ・イラストや写真などを見て、その状況や人物、話の展開などについて簡単に描写することができる。	

ウ A高等学校の「パフォーマンステスト」

生徒が「CAN-DOリスト」に記載されている能力を身に付けているかを測るため

には、パフォーマンステストを実施することが必要となる。

ここでは、先述の「CAN-DOリスト」の「話すこと」の中にある「自分のことや興味・関心のあること、身近なことについてやり取りをしたり、自分の気持ちや意見などを表現したりすることができる。」について、生徒がその能力を身に付けているかどうかを測るためのスピーキングテストの実施例を示す。

シラバスにおける「身に付ける力」と「スピーキングテストの評価規準」がリンクしている！

「外国語表現の能力」	評価規準	自分のことや興味・関心のあること、身近なことについて、やり取りをしたり、自分の気持ちや意見などを表現したりすることができる。
------------	------	--

- 1 評価の方法
スピーキングテスト（音読＋Q&A）
- 2 スピーキングテストの手順
音読した英文（下記のカードを用いる）に關係する自分自身に関する質問について回答する。

ICTの活用：書画カメラを用いて、事前に音読の際のポイントを確認します！

<p>2年次コミュニケーション英語Ⅱ 第1回 Speaking Test 音読+Q&A カード</p> <p>In a cafe a young woman was waiting for her friend. The dress she was wearing looked new. A waiter serving coffee passed by her and spilt it on her dress. She looked at her dress and then glared at the waiter. She angrily said, "Thank you very much!"</p> <p>複数の教員でパフォーマンステストを実施する場合、実施方法に差異が生じないように進行要領を準備する！</p> <p>(1) 音読してください。（1分以内） (2) 本文に関する質問に英語で答えてください。（1分以内） (3) 自分自身の意見に関する質問に英語で答えてください。（1分以内）</p>	<p>2年次コミュニケーション英語Ⅱ 第1回 Speaking Test 音読+Q&A カード 面接専用</p> <p>○あいさつ： Hello. This is your card. ○音読させる： Please read it aloud. ○質問 ①： Now, I'll ask you a question about the passage. ○質問 ②： Then, please turn over the card. I'll ask you a question about yourself. ○終わるとき： That's all, thank you. Pass me the card please. See you.</p> <p>※①と②のどちらか1つを質問する。 « Question 1 » ① According to the passage, what did the waiter do on a young woman's dress? ② According to the passage, why did the lady glare at the waiter? « Question 2 » ① Would you get angry if you were the lady?---Why?/Why not? ② What would you do if you were the lady?---Why?/Why not?</p>
---	---

3 評価基準（Question2のみ抜粋）

2年次コミュニケーション英語Ⅱ 第1回 Speaking Test 評価シート

(3) 自分自身の意見に関する質問 **評価のポイント** ⇒ ①情報量 ②表現方法（語彙、文法・語法）

・評価規準：自分のことや興味・関心のあること、身近なことについて、やり取りをしたり、自分の気持ちや意見などを表現したりすることができる。

4点：自分の意見とその理由・説明を十分に述べている。表現方法も適切である。
3点：自分の意見とその理由・説明を述べているが、最小限の情報にとどまっている。表現方法において誤解を生じるような大きな誤りはない。
2点：自分の意見は伝えているが、その理由・説明がない、または説明になっていない。
1点：質問とは無関係の内容である。または、答えられない。

4 評価の具体例

○上記の評価基準において、**4点**となる例

①の質問の回答：
I would get angry if I were the lady. That is because my dress was new, my father bought it for me, and I like it very much.

②の質問の回答：
I would make the owner of the cafe come to me if I were the lady. That is because I would make him pay for the laundry charge.

評価に関する具体的な内容は生徒に事前に提示し、生徒のスピーキングテストに対する意欲を高める！

意見 ← 理由

(2) 言語活動の充実に資する指導の実践例

外国語学習に対する関心や意欲を高め、外国語で発信しうる内容の充実に資するためには、「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」及び「書くこと」の4技能を総合的に育成するための活動を行う必要がある。また、4技能の総合的な指導を通して、4技能を統合的に活用できるコミュニケーション能力を育成するために言語活動の充実に資することが大切である。ここでは、「物語を読んで登場人物の気持ちや実際の発話を考え、スキ

ット（寸劇）に書き残してグループで発表する」実践例を示す。

「外国語表現の能力」	評価規準	物語の場面ごとに、登場人物の気持ちや実際の発話を考えて書き表し、発表することができる。
------------	------	---

1 言語活動の充実の工夫
 第三者の目線で書かれ、実際の発話はほとんど書かれていない物語を読んだ後、登場人物の気持ちや発話を考えて、スキット（寸劇）を作成し、発表する。
 ≪ 内容理解→スキットの作成→発表までの手順 ≫

①新出の言語材料を学習するとともに、物語を読んで概要を理解する。
 （場面ごとに、各登場人物に起こった出来事をまとめた表を作成する。）

単元を中心となる活動

②場面ごとに本文の内容や各登場人物の気持ちに関する質問を与え、ペアで質疑応答を行う。
 （想像力を膨らませながら、各登場人物の想定される気持ちや発話について考える。）

③3人のグループになって、好きな場面を1つ選び、登場人物の発話を想像してスキットを作る。
 （具体例を示したワークシートを活用し、スキットを作成する。）

④各グループで作成したスキットを練習し、クラス全体に向け発表する（聞き手は発表を評価する）。
 （聞き手を意識した話す速度や英語独特のイントネーション等を意識し、発表する。）

2 ワークシート例

選んだ場面	① <i>Ms. Tanaka and the dog meet again.</i>
登場人物	② <i>Ms. Tanaka, a dog, a narrator</i>
会話	T: <i>I have always wanted to see you. Thank you for w</i> ③ (N: <i>Ms. Tanaka burst into tears.</i>) D: ④ <i>Me, too! I'm so happy to see you again.</i> T: <i>You can speak?</i> D: <i>Yes, I can.</i> ⑤ (N: <i>The dog has never spoken in front of Ms. Tanak</i>

①教科書からスキットの題材となる場面を1つ選択する。
 ②グループのメンバー全員に役割が当たるように配役する。
 ③スキットの進行がスムーズになるよう、ナレーションを設定する。
 ④感情表現がある場面では、感情豊かに英語で表現するよう指導する。
 ⑤単元で出てきた語句や表現、文法事項を積極的に活用する。

3 指導事例と学習指導要領の関連
 本指導事例における主な学習活動と学習指導要領の関連は、次のとおりである。

○ 物語ごとに、出来事と登場人物の気持ちについてペアで質疑応答を行う。

ウ 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、話し合ったり意見の交換をしたりする。……………（「コミュニケーション英語Ⅰ」2(1)）

○ 物語の登場人物の気持ちや実際の発話を考えて、グループでスキットを作成する。

エ 聞いたり読んだりしたこと、学んだことや経験したことに基づき、情報や考えなどについて、簡潔に書く。……………（「コミュニケーション英語Ⅰ」2(1)）

(3) 学校における指導と評価の改善

外国語の学習においては、失敗を恐れず、積極的に外国語を使おうとする態度を育てることが重要である。そのためには、授業において、生徒が主体的に「話す」「書く」などの活動を通じて互いの考えや気持ちを外国語で伝え合う言語活動を展開する必要がある。英語ぎらいを作らず、生徒に主体的に学ばせるためには、各学校が、学習指導要領を踏まえながら、4技能を通じて「外国語を使って何ができるようになるか」という観点から学習到達目標を設定するとともに、主体的な学びにつながる「コミュニケーションへの関心・意欲・態度」を重視した評価を行うことによって、生徒が主体的に学ぶ意欲や態度などを含めた多面的な評価方法を検証し、改善していくことが重要である。

Topic

スーパーグローバルハイスクール（SGH）の取組における 海外フィールドワーク

スーパーグローバルハイスクール（SGH）では、課題研究の一環として行うフィールドワークや成果発表等のための海外研修等を行うこととしており、登別明日中等教育学校では、世界の食糧問題をテーマに課題研究に取り組んでいる。昨年度は、生徒がオーストラリアを訪問し、農業科をもつ高校や農場等の施設を訪れ、「食」や「農業」についての理解を深めるための海外フィールドワークを実施している。

目的 ①オーストラリアの農場や農業関連施設を訪問し、現地の食糧事情や日本との関わりについて理解を深める。

②オーストラリアの高校生や大学生との意見交換等を通じて交流を深め、互いの文化を理解し、国際的な視野を広げる。

【事前研修】	【実施内容】	【成果の普及】
○ALT（オーストラリア出身）とのディスカッション ・オーストラリアの生活や文化など ○駐日オーストラリア大使等とのディスカッション ・オーストラリア農業の特徴やTPPに対するオーストラリア政府の考え方など	○現地での高校生との交流や意見交換 ・オーストラリアと日本の食文化や農業など ○農場でのフィールドワーク ・オーガニック農業、気候変動への対策など ○その他 ・大学訪問やホームステイなど	○在校生向けの成果報告会 ○成果等のホームページへの掲載 【生徒の感想（一部）】 ・日本の普通科でも、農業に関する科目を設置することにより、食や農業に対する関心や理解が深まり、日本や北海道が抱える課題に対する意識も高まるのではないかと思った。

◇北海道教育委員会のホームページ（<http://www.dokyoj.pref.hokkaido.lg.jp/hk/kki/sgh.htm>）

◇北海道登別明日中等教育学校のホームページ（<http://www.akebi.hokkaido-c.ed.jp/>）

Topic

国際バカロレア（IB）について

国際バカロレア（以下IB）は、グローバル人材に求められる素養・能力である、自分の力で考え、発信する力、さらには異文化理解の前提として、自国の文化への理解を深め、アイデンティティを確立すること重視しており、世界140以上の国・地域、約4,300校以上で導入されている国際的な教育プログラムである。

我が国では、IBの普及・拡大を推進しており、平成30年までに、国内の認定校を、現在の35校から200校に増加させることを目標として掲げている。そのため、文部科学省では、国内の大学入試におけるIBの活用促進や、国際バカロレアの導入を促進するための教育課程の特例措置などの制度改善を図るとともに、IBの認定に向けた手続きやコスト、学校で工面すべき設備などの情報を正しく伝えるための「国際バカロレア認定のための手引き」の作成などの取組を行っている。

国際バカロレアの目指す学習者像

探究する人	心を開く人
知識のある人	思いやりのある人
考える人	挑戦する人
コミュニケーションができる人	バランスのとれた人
信念を持つ人	振り返りができる人

◇ 全ての学校において、育成すべき資質・能力を検討する際の参考となる。

◇文部科学省のホームページ（http://www.mext.go.jp/a_menu/kokusai/ib/1308002.htm）